

平成25年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年11月8日

上場取引所 東 名

上場会社名 横浜ゴム株式会社

コード番号 5101 URL <http://www.vrc.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役会長兼CEO (氏名) 南雲 忠信

問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 宮田 哲史

TEL 03-5400-4520

四半期報告書提出予定日 平成25年11月8日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年12月期第3四半期の連結業績(平成25年1月1日～平成25年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年12月期第3四半期	412,410	4.9	29,921	13.8	31,118	22.2	19,553	12.3
24年12月期第3四半期	393,066	—	26,299	—	25,457	—	17,409	—

(注) 包括利益 25年12月期第3四半期 50,685百万円 (173.7%) 24年12月期第3四半期 18,518百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年12月期第3四半期	60.50	—
24年12月期第3四半期	51.96	—

平成23年12月期は、決算期変更により、9ヶ月決算となっております。これに伴い、平成23年12月期第3四半期連結財務諸表を作成していないため、平成24年12月期対前年同四半期増減率については記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年12月期第3四半期	605,808	255,471	41.0
24年12月期	543,829	211,349	37.5

(参考) 自己資本 25年12月期第3四半期 248,151百万円 24年12月期 204,158百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年12月期	—	8.00	—	12.00	20.00
25年12月期	—	10.00	—	—	—
25年12月期(予想)	—	—	—	12.00	22.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年12月期の連結業績予想(平成25年1月1日～平成25年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	610,000	9.0	59,000	18.7	56,000	6.9	36,000	10.4	111.40

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 有
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、【添付資料】P.3「2.サマリー情報(その他)に関する事項」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

25年12月期3Q	342,598,162 株	24年12月期	342,598,162 株
-----------	---------------	---------	---------------

② 期末自己株式数

25年12月期3Q	19,424,694 株	24年12月期	19,377,418 株
-----------	--------------	---------	--------------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

25年12月期3Q	323,195,147 株	24年12月期3Q	335,037,789 株
-----------	---------------	-----------	---------------

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続きの対象外であります。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記の業績予想につきましては、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき当社が作成した見通しであり、実際の業績は、今後の様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

【添付資料】

[添付資料の目次]

1. 当四半期決算に関する定性的情報	
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（その他）に関する事項	
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計処理方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表等	
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 継続企業の前提に関する注記	9
(4) セグメント情報等	9
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10
(6) 重要な後発事象	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間(平成25年1月1日～平成25年9月30日)における世界経済は、債務問題で低迷していた欧州にようやく底打ち感がでてきました。また、米国では消費が緩やかに回復してきました。一方、中国では経済成長が減速し、その他アジア地域の新興国や資源国でも成長が鈍化してきており、全体では未だ先行き不透明な環境が続いております。

わが国の経済は、金融緩和策等の各種政策を推進したアベノミクスや為替円安の影響もあり、回復基調となりました。また、タイヤ業界は、日本国内では比較的堅調に推移し、世界市場でも需要が回復傾向に推移し、全体では堅調に推移しております。

こうした状況の中、当社グループは、引き続き内部改善努力と営業体制の強化及び効率化に取り組んでまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の連結売上高は4,124億10百万円(前年同期比 4.9%増)、連結営業利益は299億21百万円(前年同期比 13.8%増)、連結経常利益は311億18百万円(前年同期比 22.2%増)、連結四半期純利益は195億53百万円(前年同期比 12.3%増)となりました。

各事業の業績を示すと、次のとおりであります。

① タイヤ事業

売上高は3,233億2百万円(前年同期比 4.9%増)で、当社の総売上高の78.4%を占めております。

国内新車用タイヤは、エコカー補助金の終了やカーメーカーの現地生産化等が影響し、低調に推移してまいりましたが、軽自動車及び海外向け自動車生産量の増加に伴い、回復基調にあります。

国内市販用タイヤは、「BluEarth(ブルーアース)」ブランドの低燃費タイヤ「BluEarth AE-01(ブルーアース・エーイーゼロワン)」、「BluEarth RV-01(ブルーアース・アールブイゼロワン)」及び特にウェット性能の高い「BluEarth-A(ブルーアース・エース)」や平成25年3月に発売した「ECOS ES31(エコス・イーエスサンイチ)」が好調に推移しました。また、トラック・バス用タイヤのZEN(ゼン)シリーズが大きく伸長し、販売量は堅調に推移しましたが、売上高については、市場の低価格志向や価格競争の激化が影響し、低調に推移しました。

海外販売は、北米、中国での需要回復が顕著であり、欧州等でも一部を除いて徐々に回復基調となり、好調に推移した結果、売上高は前年を上回りました。こうした状況の中、当社は、平成25年8月にロシアのモスクワで開催された「第9回国際オートモビルエキシビジョン-インターオート2013」に出展し、1) MotorSports(モータースポーツ)、2) Snow(スノー)、3) BluEarth(ブルーアース)の主力3ブランドを中心に総合タイヤメーカーとしての認知度向上と“高性能なYOKOHAMA”のイメージ浸透を図るなど、積極的な営業活動に取り組んでおります。

② 工業品事業

売上高は、704億2百万円(前年同期比 4.2%増)で、当社の総売上高の17.1%を占めております。

ホース配管事業については、建設機械用ホースが日本市場及び中国市場において回復傾向となったものの、タイなど東南アジアでは引き続き需要低迷の影響を受けて厳しい状況となりました。一方、自動車用ホースは北米、東南アジア地域での自動車生産の拡大を反映し好調に推移しました。

工業資材事業においては、引き続きゴム支承をはじめとした土木関連製品の需要が低迷したものの、コンベヤベルト、マリンホース及び防舷材が好調だったことから、全体では堅調でした。

ハマタイト・電材事業は、建築向けシーリング材の需要が厳しいながらも回復の兆しが見えております。また、自動車向け接着剤は海外を中心に堅調に推移したものの、携帯電話向けコーティング材等の電材製品は大幅な需要の落ち込みの影響を受けて低調に推移しました。

③ その他(航空部品事業、スポーツ事業等)

売上高は、187億5百万円(前年同期比 8.2%増)で、当社の総売上高の4.5%を占めております。

航空部品事業は、民間航空機については、需要の回復と為替円安の効果もあり好調に推移し、官需についても前年を上回り、全体として好調に推移しました。

スポーツ事業は、平成25年9月に“飛び”を追求した「egg(エッグ)」シリーズから発売の「NEW egg SPOON(ニュー・エッグ・スプーン)」、「NEW egg FW(ニュー・エッグ・フェアウェイウッド)」及び「NEW egg IRON(ニュー・エッグ・アイアン)」の販売は好調に推移しましたが、「iD nabla BLACK(アイディー・ナブラ・ブラック)」及び「iD nabla X(アイディー・ナブラ・エックス)」の販売が低調に推移したほか、海外市場の悪化等が影響し、全体では低調に推移しました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期末における総資産は6,058億8百万円となり、前期末に比べ619億78百万円増加しました。これは、有形固定資産の増加および投資有価証券の時価評価による増加があったことによるものです。

負債は3,503億36百万円となり、前期末に比べ178億57百万円増加しました。これは、未払法人税等の減少があったものの、有利子負債が増加したこと等によるものです。

純資産合計は、2,554億71百万円となり、前期末に比べ441億21百万円増加しました。これは、株価および為替相場変動の影響等によるその他の包括利益累計額の増加や、四半期純利益を計上したことによるものです。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

通期の業績予想につきましては、前回公表値(平成25年8月9日公表)を修正しておりません。

(注)上記の業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき当社で判断したものであり、実際の業績は予想と異なる可能性があります。

2. サマリー情報(その他)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計処理方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(有形固定資産の減価償却方法の変更)

従来、当社は、有形固定資産の減価償却方法について、定率法(ただし、建物及び当社の尾道工場については定額法)を採用しておりましたが、第1四半期連結会計期間より定額法に変更いたしました。

当社が中期経営計画「グランドデザイン100(GD100)」の第3ステップとして平成24年1月に策定した「GD100 PhaseIII」において、海外ではロシア、中国、アジアを中心とした大規模な増産投資を進め海外生産比率を大幅に高める一方、国内では定常的な維持・更新を中心とした設備投資を実施することを計画しております。

こうした中、当連結会計年度より上記計画に基づき増産投資が行われた海外連結子会社の生産設備が本格稼働を迎えることを契機に、当社の生産設備の使用実態を適切に反映した減価償却方法について検討いたしました。

この結果、今後、当社の生産設備の稼働は安定的に推移していき、設備投資は定常的な維持・更新を中心とした案件が大半となり、将来に亘って同様の設備の使用状況が継続すると見込まれることから、当社の有形固定資産の減価償却の方法として定額法を採用することが、期間損益計算をより適正に行うための費用配分方法であると判断いたしました。

この変更により、従来の方法によった場合と比べ、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益がそれぞれ **2,492** 百万円増加しております。

3. 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	21,399	20,177
受取手形及び売掛金	148,097	133,894
商品及び製品	52,757	74,254
仕掛品	7,109	8,353
原材料及び貯蔵品	19,124	20,342
その他	21,568	26,881
貸倒引当金	△1,224	△1,204
流動資産合計	268,832	282,700
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	59,031	65,040
機械装置及び運搬具（純額）	67,512	76,564
その他（純額）	59,488	60,420
有形固定資産合計	186,033	202,025
無形固定資産	2,250	2,395
投資その他の資産		
投資有価証券	67,310	96,952
その他	20,100	22,299
貸倒引当金	△698	△565
投資その他の資産合計	86,712	118,686
固定資産合計	274,996	323,107
資産合計	543,829	605,808
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	77,600	68,935
電子記録債務	2,799	6,440
1年内償還予定の社債	10,000	10,000
コマーシャル・ペーパー	—	14,000
短期借入金	82,942	102,984
未払法人税等	16,374	5,715
役員賞与引当金	99	91
その他	44,788	41,259
流動負債合計	234,605	249,425
固定負債		
社債	10,000	—
長期借入金	43,342	44,535
退職給付引当金	18,700	19,030
その他	25,830	37,345
固定負債合計	97,873	100,911
負債合計	332,479	350,336

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	38,909	38,909
資本剰余金	31,952	31,952
利益剰余金	145,606	158,306
自己株式	△11,294	△11,344
株主資本合計	205,174	217,823
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	20,330	39,783
為替換算調整勘定	△14,938	△3,221
在外子会社の年金債務調整額	△6,408	△6,235
その他の包括利益累計額合計	△1,016	30,327
少数株主持分	7,191	7,319
純資産合計	211,349	255,471
負債純資産合計	543,829	605,808

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】
 【四半期連結損益計算書】
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年9月30日)
売上高	393,066	412,410
売上原価	269,760	276,062
売上総利益	123,306	136,348
販売費及び一般管理費	97,006	106,427
営業利益	26,299	29,921
営業外収益		
受取利息	217	239
受取配当金	982	889
為替差益	377	2,583
その他	1,356	1,112
営業外収益合計	2,934	4,824
営業外費用		
支払利息	1,943	2,122
その他	1,833	1,505
営業外費用合計	3,776	3,628
経常利益	25,457	31,118
特別損失		
固定資産除売却損	240	189
特別損失合計	240	189
税金等調整前四半期純利益	25,216	30,928
法人税等	7,706	12,039
少数株主損益調整前四半期純利益	17,510	18,889
少数株主利益又は少数株主損失(△)	100	△664
四半期純利益	17,409	19,553

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	17,510	18,889
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△5	19,465
為替換算調整勘定	749	11,965
在外子会社の年金債務調整額	267	177
持分法適用会社に対する持分相当額	△2	188
その他の包括利益合計	1,008	31,796
四半期包括利益	18,518	50,685
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	18,281	50,897
少数株主に係る四半期包括利益	237	△212

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

I 前第3四半期連結累計期間(自平成24年1月1日至平成24年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益または損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	タイヤ	工業品	計				
売上高							
外部顧客への売上高	308,230	67,542	375,772	17,294	393,066	—	393,066
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,363	67	1,431	3,123	4,555	△ 4,555	—
計	309,594	67,609	377,204	20,417	397,622	△ 4,555	393,066
セグメント利益	21,631	3,475	25,107	1,200	26,308	△ 8	26,299

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、その主なものは航空部品事業、スポーツ事業であります。

2. セグメント間取引消去によるものです。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成25年1月1日至平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益または損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	タイヤ	工業品	計				
売上高							
外部顧客への売上高	323,302	70,402	393,705	18,705	412,410	—	412,410
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,282	76	1,358	2,538	3,896	△ 3,896	—
計	324,584	70,478	395,063	21,243	416,307	△ 3,896	412,410
セグメント利益	22,028	5,395	27,424	2,497	29,921	△ 0	29,921

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、その主なものは航空部品事業、スポーツ事業であります。

2. セグメント間取引消去によるものです。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(有形固定資産の減価償却方法の変更)

会計方針の変更等に記載のとおり、当社は、有形固定資産の減価償却方法について、定率法(ただし、建物及び当社の尾道工場については定額法)を採用しておりましたが、第1四半期連結会計期間より定額法に変更いたしました。

この変更に伴い、従来の方法によった場合に比べて、当第3四半期連結累計期間のセグメント利益は、「タイヤ」については2,002百万円、「工業品」については356百万円、「その他」については133百万円、それぞれ増加しております。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。

(6) 重要な後発事象
該当事項はありません。